主催：朝日新聞社メディアビジネス局
後援：朝日学生新聞社
特別協賛：リソー教育グループ 名門会 家庭教師センター

紙上採録

名門校の作問者が語る、算数の入試問題にこめられた想いとは

中学入試対策セミナー

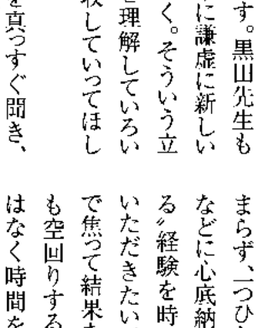
子どもにあった学校選びと保護者ができること

6月25日、大阪・梅田のハービスホールで「中学入試対策セミナー～お子様にあった学校選びと保護者ができること～」が開かれた。中学入試の合否を決める上で大きなウェートを占める算数の試験の作問者が問題に込めた思いや意図、最新の中学入試動向、保護者の成功体験談など、普段はなかなか聞くことができない貴重な話に多くの来場者が聞き入っていた。

第1部

〈登壇者〉四天王寺中学・高等学校　田邊健次先生
東大寺学園中・高等学校　黒田邦彦先生
灘中学・高等学校　河内一樹先生

〈コーディネーター〉朝日学生新聞社 東京編集部学習グループデスク　沢辺雅俊



沢辺雅俊

大切なのは答えでなく問題と向き合うこと

沢辺　中学に入学後の6年間で伸びる生徒にはどんな特徴がありますか。

黒田　強い向上心を持っていることが大前提ですが、人の話を聞いて吸収できる、何事も最後までやりきめずに努力を続けられる、自分の力をきちんと把握できている、こういう生徒はよく伸びます。学問に対して謙虚であることがすべてにおいて伸びる秘訣だと思います。生徒にも「学問にだけは謙虚になってくれ」と言っています。

河内　算数で解ける問題をわざわざ数学的に解きたくない、という考えの生徒は伸びません。自分が知っている枠組みでできるから新しいことを学ばなくてもいい、と判断すると新しいことを取り込めなくなって取り残されていきます。黒田先生もおっしゃったように謙虚に新しいことを学んでいく。そういう立場であることを理解していろいろなことを吸収していってほしいと思います。

田邊　人の話を真っすぐ聞き、「なるほど」と腑に落としていく生徒がすごく伸びているように感じます。問題を解く練習はしないといけませんが、理解なしにいくら数を解いてもそれは効率の悪い勉強であって身につきません。一つひとつのことに興味を持ち、一番のポイントを考えられる。そういう勉強姿勢を持った子がしっかり伸びています。

沢辺　それぞれの学校を受験する場合、どんな勉強が有効でしょうか。

田邊　難しい問題をたくさん練習する必要はありません。標準的な問題を解いた後に、その問題で何を学んだのかを意識しながら勉強することが一番効率がいいと思います。そして間違えたら必ずその原因を追求すること。間違えたときこそ宝物があります。そういう姿勢で勉強に取り組み続けることが合格の一番の近道だと思います。

河内　答えを出す段階にとどまらず、一つひとつの概念や問題などに心底納得する〝腑に落ちる〟経験を時間をかけてやっていただきたい。時間がないなかで焦って結果を求めようとしても空回りするものです。そうではなく時間をかける経験こそが実は最短の道、という気持ちで受験に臨んでもらいたいと思います。

黒田　「学問に王道なし」と言います。向上心を持って授業を聞き、粘り強く課題に取り組み、結果が出たらしっかり自己分析する、ということを繰り返しやっていただきたいです。それと小学生のうちから答えを導く道筋をしっかり考えてもらいたい。そして過去問を通して慌てずじっくり問題の意味を考えることをしっかり勉強してほしいです。

沢辺　ありがとうございました。あと半年ほどの期間、受験に向けて先生方のアドバイスをもとに頑張ってもらえればと感じております。

関西を代表する進学校 解答形式や内容は様々

沢辺　各校の算数の入試問題で特徴的なところを教えてください。

田邊先生（以下敬称略）　四天王寺では、標準的な問題に少しひねりを加えて出題することが多いです。図形、旅人算、グラフを描かせるもの、規則性、場合の数の分野が比較的よく出されていますが、偏りがないようバランスを考えています。また、受験生が驚くような突拍子もない問題ではなく、努力している子が点を取れる出題を心がけています。

黒田先生（以下敬称略）　東大寺学園では、答えまでに至った過程を書いてもらうため、解答用紙にスペースを取っています。答えだけでも正解にしますが、途中まで正しく考えられていれば加点できますし、考えをしっかり書くことを意識してもらう意図もあります。一見して形が見えるものは避け、よく読んで考えてもらってから「このパターンだな」と気づくような問題を出題しています。

河内先生（以下敬称略）　灘の入試は2日間行います。1日目は答えのみ、2日目は原則として途中経過も書いてもらう形式です。両日とも、「この式の答えを書きなさい」という単純な計算問題は少なく、文章題、整数の問題、場合の数、平面図形、空間図形、といった算数で学ぶ幅広いジャンルを出題しています。

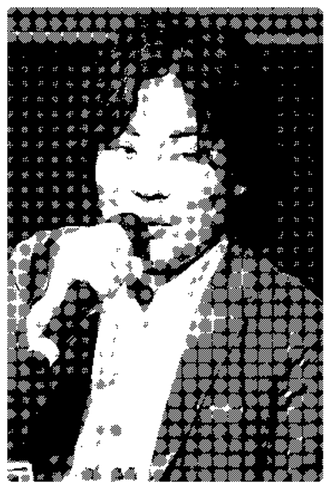
沢辺　問題をつくる際に何を心がけていますか。

黒田　第一に考えているのは、受験生の力が反映される問題にすることです。しかし、それだけでなく、算数の入試問題は本学園数学科の作品ですし、学校の顔だと私個人は思っています。ですから、弁別のためだけではなく、子どもたちがじっくり取り組んだときに「これは非常におもしろいことを言っているな」と気づいてもらえたり、ある種のメッセージ性をもつような問題をも入試問題のセットの中に入れるようにしています。

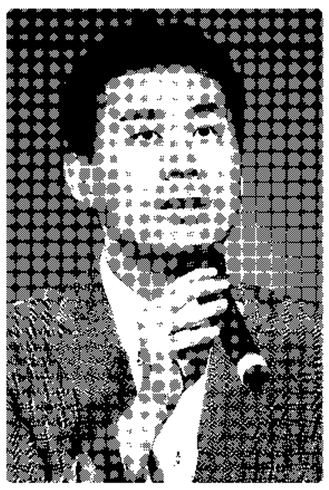
田邊　一番注意しているのは、受験生に分かりやすく問題の意味が伝わるようにすることです。例年、60分の試験で大問が6-7題、小問が三つずつ。全員が解ける問題ばかりでは差がつかないので、小問は徐々に難易度を高くして、三つ目は学校のプライドをかけたような難しい問題を持ってくる場合が多いです。

河内　灘の入試はすべての問題が難しいわけではありません。まずは、ホッとできる問題を出題するように強く意識しています。そして、少し難しい問題、ボリュームのある問題を入れて合否が分かれるようにしたいと思っています。

四天王寺中学・高等学校
田邊健次先生



東大寺学園中・高等学校
黒田邦彦先生



灘中学・高等学校
河内一樹先生

中学受験生 先着順限定受付中！　名門会ならまだ間に合う！

プロ教師による 中学受験 夏の集中特訓

教室指導も選べます 120分×1回～ ※回数自由設定

プロ教師が原因を分析して改善するから短期間で劇的な伸びにつながります。

こんな悩みを夏に解決！
- 基礎の抜けがある、苦手を放置している
- 塾の課題が多すぎて優先順位がつかない
- 模試・テストが受けっぱなしになっている
- 志望校の記述問題の対策をしてほしい

お申し込みは右記フリーダイヤルまで

私たちも、プロ家庭教師で難関中合格！ 2017年度 中学入試

ほか 多数合格！ 名門会ホームページをご覧ください

東証一部上場 リソー教育グループ
100%社会人プロ家庭教師 登録数5,000名以上

名門会 家庭教師センター

最新の教師情報・お問い合わせは
0120-24-3759
関西教務本部［10:00～22:00 月～土］
www.meimonkai.co.jp 名門会